

資料館だより

2024.7.1 No.123(季刊)

編集・発行 国立ハンセン病資料館

副館長就任のお知らせ

2024年4月1日付で、宮本弘典（みやもとひろのり）が副館長に就任いたしました。新体制の下、引き続きハンセン病回復者とその家族の名誉回復を図るために、ハンセン病問題に関する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消を目指してまいります。



今日まで続くハンセン病問題を惹起したのは、国の誤った法制・政策であり、またそれを正すことができずに放置した私たちの社会にほかなりません。この歴史を明らかにしたのは元患者の皆さん自身による闘いでしたが、国立ハンセン病資料館は、語られない事実や書かれない事実も含めて、その歴史を検証し、次代に伝え、人間の尊厳の回復と擁護のために活動することが求められます。歴史の検証と継受それ自体が日本社会の課題というべきですが、国立ハンセン病資料館の取組がその一つのモデルとなることを目指して、微力を尽くします。
(宮本弘典)

図書室より

図書室では現在、企画展「絵ごころでつながるー多磨全生園絵画の100年」の連動企画として、全国のハンセン病療養所の絵画にまつわる資料を集めた展示を行っております。装飾のイメージは、多磨全生園の森とそこに集う鳥たちです。当館付近で撮影した自然豊かな写真も、パレットに出した絵の具を模して展示に彩りを添えています。



展示資料は、全国のハンセン病療養所の入所者の作品集や画集、当館で行われた企画展の図録、絵画の描き手ながら詩や小説も書かれる方の図書、彼らの描かれた絵が表紙を飾る図書ほか、関連図書など二十数点。描き手の溢れる想いに触れて、感じていただけたらと思っております。図書室でもぜひ絵画をご堪能ください。こちらの展示資料はお手に取ってご覧いただけます。複数冊の所蔵がある場合は、貸出も可能です。(開催期間は9月1日まで)

企画展にお越しの際は、ぜひとも図書室にもお寄りいただき、展示資料はもちろん、当館図書室所蔵の図書やDVD、漫画、絵本などをご覧ください。ご不明点があれば、お気軽にカウンターまでお問い合わせください。皆さまのご来室をお待ちしております。
(武藤久美)

国立ハンセン病資料館 利用案内

- 開館時間 9:30~16:30
- 入館 無料
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日
- 交通
 - ・西武池袋線 清瀬駅南口より 西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分(「ハンセン病資料館」下車)
 - ・西武新宿線 久米川駅北口より 西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分(「ハンセン病資料館」下車)
 - ・JR武蔵野線 新秋津駅より 徒歩約20分



〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13 TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981 URL <https://www.nhdm.jp/>

~ハンセン病問題に係る全国的な意識調査報告書を受けて~

厚生労働省が設置した「ハンセン病問題に係る全国的な意識調査に関する検討会」による、ハンセン病問題に特化した全国的な住民意識調査が2023年12月にはじめて行われました。2万916人の有効回答から集計・分析された調査結果は報告書にまとめられ、今年4月にマスメディアでも大きく取り上げられました。

報告書では、国立ハンセン病資料館に関する重要な指摘もなされています。ひとつは、対象とする年齢層によって異なる啓発ツールを用いるべきだ、という点です。人権問題の中でハンセン病問題の認知度が14位と低い18歳~39歳については、この年代の人たちが触れる割合の高いインターネットを介した記事の効果的活用が指摘されています。これは、当館の認知拡大の施策においても参考になる指摘です。

「知識の獲得」と「誤った考え方の是正」につながりがないという指摘も重要です。当館や社会交流会館の展示や出張講座の経験者は、医学的知識や回復者・家族の被害事例認知度、強制隔離政策の認知度、偏見差別の存在認知の理解度が高いにもかかわらず、回復者に対する見方は二極化しています。地域で普通に暮らせることが望ましい、病気の有無によって人としての価値に変わりはないという点も同様です。ハンセン病問題を深く学び、より現実的な問題に感じられるようになった結果、「共感」と「反発」という対照的な反応を惹起したものと推察されます。

偏見差別をなくす方法についても指摘がなされています。当館や社会交流会館の展示や出張講座の経験者においては、道徳などの果たす役割を重視し、個人的な問題解決を志向する傾向が強く、法的な規制による問題解決を志向する傾向は弱いという点です。悪質な差別は法律によって規制すべきであるなどの項目でも、全体平均を下回っています。障害者差別解消法やヘイトスピーチ解消法、部落差別解消法等にみられる近時の内外の動きが十分に周知されていないようです。

これらの分析結果を踏まえ、当館では、各種事業の見直しを検討し始めました。参考になるのは、2024年2月17日に開催された「第23回ハンセン病問題に関するシンポジウム(人権フォーラム2024)」(主催:厚生労働省、法務省、文部科学省、全国人権擁護委員連合会)における「聞き書きその後」です。高校生時代にハンセン病元患者とその家族の語りによる聞き書きプログラムに参加した大学生・社会人による発表では、聞き書きの経験により、その後の彼らの人生観や活動にどのような変化があったかについて、異口同音に、主権者の一人としてハンセン病問題の解決に取り組んでいきたいと語りました。将来、建築関係の仕事に従事する予定の学生からは共生の建物作りをしたいという意気込みが語られ、誠に心強い思いをいたしました。これも、当事者の方々の「語り」のもつ大きな効果といえます。

しかし、今回の意識調査では、ハンセン病元患者(回復者)・家族・問題に取り組んでいる人と会った経験では、「②出会いはない/経験はない」と回答した割合が85.1%を占めました。最も高い割合を示した18~29歳でも、「①元患者(回復者)と会ったことがある」は8.6%で、「③ハンセン病問題に取り組んでいる人と会ったことがある」は6.3%に過ぎません。全国13か所の国立ハンセン病療養所の入所者数は、2024年5月1日現在、718名で、平均年齢は88.3歳です。退所者の方、家族の方も少子・高齢化の傾向にあり、当事者の方との「触れ合い」の機会はますます少なくなりつつあります。

直接、対面で「触れ合う」ことができなくとも、さまざまなツールを用い、それに代わる「触れ合い」の機会を提供することも当館の役割です。この役割は今後ますます重要となっていきます。この点も、今回の意識調査結果で改めて痛感したところです。

ハンセン病問題基本法等で与えられた任務をより実効的に果たすため、内外のご指摘を踏まえ、絶えざる改善を図っていきたく存じます。今後とも宜しくお願い申し上げます。

国立ハンセン病資料館館長 内田 博文

「多磨全生園を描こうーあおぞら絵画教室」 成果発表展を開催中



現在、当館1階ギャラリーでは、企画展「絵ごころでつながるー多磨全生園絵画」(会期：9月1日まで)の関連イベント「多磨全生園を描こうーあおぞら絵画教室」の成果発表展を開催中です。同絵画教室は、多磨全生園で生きることを余儀なくされながらも、園内の施設及び自然を描いた同園の描き手たちに倣い、参加者が園内で写生を行った催しです。

第1回(2024年3月30日)は、菜の花と陽光桜が見える緑地で開催し、第2回(同年4月29日)は、全生学園跡を中心に、周辺の山吹舎、宗教地区、築山(望郷の丘)などを描きました。本展は、この2日間の記録と成果を発表するものです。

多磨全生園にまつわる記憶を絵によって語り継ぐひとつの試みである本展が、ひろくハンセン病問題における患者・回復者とそのご家族の「記憶の継承」の大切さについて考えるきっかけとなれば幸いです。それぞれの力作をぜひご覧ください。(吉國元)



▲成果発表展会場の様子



▲▶ 3月30日(土)に開催した第1回の様子



▲ 4月29日(月・祝)に開催した第2回の様子

「多磨全生園を描こうーあおぞら絵画教室」 成果発表展

会場：当館1階ギャラリー 会期：6月5日(水)ー7月31日(水)

夏休み子ども企画

「職業体験～図書室のおしごと～」



ハンセン病回復者の生きた証を残す図書室のおしごとを体験してみませんか。図書室ではどんな作業をしているのか、実際に体験できる機会です。夏休みの自由研究にぜひご利用ください。

【開催日時】 8月8日(木) 11:00~11:30
8月22日(木) 11:00~11:30

【開催場所】 国立ハンセン病資料館図書室

【定員】 各回先着12名まで

【対象】 小学生以上

【申込方法】 事前申込不要・時間になりましたら当館図書室までお越しください。(齊藤聖)



夏の体験型イベント

「特別体験 入ってみよう！重監房」



当館では、この夏、普段入ることのできない重監房展示への入室体験イベントを開催いたします。「重監房」とは、群馬県草津町にある国立療養所栗生楽泉園の敷地内にかつてあった、ハンセン病患者を対象とした懲罰用の建物です。

本イベントを通じて、かつてハンセン病療養所で行われた人権侵害について学び、現在も残る課題や、その解決のために自分ができること、自分や他者を尊重することについて、一緒に考えてみませんか。

【開催日時】 7月21日(日)・8月3日(土)・8月17日(土) 午前 11:00~11:30
午後 14:00~14:30

【定員】 各20組

【対象】 どなたでもご参加いただけます(年齢不問)

【申込方法】 事前申込不要・当日当館受付までお声かけください。

(橋本賢一)



▲昨年の開催の様子



この文字はマークとかぶらない位置へ移しました

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
	休	休	休	休	休	休							1		休					
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
	休					★		休			夏				休					
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
		休		休					休		休		1			休		休		
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
	1	休						休			夏					休				
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	29	30	休				
	休							休							休					

休：休館日 休：図書室休室日 1：夏の体験型イベント 夏：夏休み子ども企画
：企画展開催 : 絵画教室成果発表展開催 ★：企画展トークイベント